資料６

ギャンブル等依存症対策推進関係者会議　説明資料

相談現場から見る、遊技と社会

パチンコ・パチスロの「のめり込み」に関する相談支援

認定特定非営利活動法人

リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）

相談現場から見る、遊技と社会

遊技の「問題」とともに、その人にとっての遊技の意味を聴く。

RSNとは

パチンコ・パチスロの「のめり込み」に関する
本人・家族等の相談を、全国から受ける電話相談窓口です。

相談のしやすさ	相談で行うこと
匿名・相談料無料 **何度でも継続して相談できる**	状況を聴き、困りごとを整理する 必要な支援につなぐ

相談を聴くと、遊技の「問題」だけではなく、
遊技がその人にとって何であるかが見えてきます。

20年の相談蓄積

制度より前から、業界とともに相談支援を続けてきた。

年	相談支援の歩み
2003	研究会発足
2006	RSN設立・電話相談開始
2018	ギャンブル等依存症対策基本法成立
2026	新システム稼働

相談実績	件数
2025年 年間相談	3,926件
累計相談	56,948件
初回相談	784件
複数回相談	2,845件

2006年の相談開始は、基本法成立の12年前。

法律で対策が求められる以前から相談を続けてきたことが、RSNと業界の資産です。

数値：RSN電話相談事業報告書掲載数値より（2025年）。累計は2006年〜2025年12月末の集計。

遊技と人との関わり

なぜ続けるのか。いつ「楽しみ」が「困りごと」に変わるのか。

相談で聴く視点	暮らしの中で確かめること
01　続ける理由	楽しみ、習慣、気分転換など、続けてきた理由
02　生活との関係	仕事、家族、孤立、ストレスと遊技との関係
03　変化のきっかけ	お金・時間・人間関係が、いつ、どのように崩れ始めたか
04　見え方の違い	本人と家族では、同じ出来事の見え方や困りごとが異なる

相談は、その人の暮らしの中で遊技が占める位置を教えてくれます。

「やめればいい」だけでは見えなくなるもの

遊技やのめり込み問題は、しばしば短い言葉にまとめられてしまいます。

社会で広がりやすい見方	単純化で抜け落ちるもの
「遊技する人＝依存」 「意思が弱い」「自己責任」 「本人の問題」 「業界は何もしていない」	生活背景 家族との関係 遊技が果たしていた役割 支援の必要性

単純化すると、本人の背景も、遊技の意味も、支援の必要性も見えにくくなります。
相談現場から見える事実を丁寧に伝えていきます。

その人にとって遊技が提供しているものは何かを知る

遊技が提供しているものは、勝ち負けだけではない。

相談の中で語られる、遊技の意味

楽しみ　**気分転換**　**一人の時間**　**非日常**

期待感　**日常の区切り**　**居場所**

相談現場では、遊技がその人に何を与えてきたかも見えてきます。
こうした意味を理解することが、本人の暮らしに即した支援につながります。

遊技の意味を理解しないままでは、支援も、ユーザー理解も浅くなります。

大衆娯楽を支える仕組み

楽しめているときから、楽しめなくなったときへ、どちらも支えられる仕組みが必要です。
　相談窓口案内ポスターのホール内掲示＝いつでも目につくところに支援の入り口を

段階	生活と相談支援のつながり
01　楽しめている	日常の楽しみや気分転換として遊技を利用している
02　バランスが崩れる	お金・時間・生活との関係に困りごとが生じる
03　相談につながる	本人・家族が状況を話し、困りごとを整理する
04　生活を整える	継続相談や必要な支援を通じて、これからの生活を考える

娯楽としての価値と、のめり込み問題への対策は両立します。
**　相談支援は、身近で手軽な大衆娯楽を支える仕組みでもあります。**

自己申告・家族申告プログラムの抑止力

申請件数に加えて、仕組みの周知が持つ「道路標識」としての機能にも着目。

プログラムの基本

本人が金額・回数・時間の上限や入店制限を申し込み、店舗が対応。
家族申告では、ご家族が遊技者の入店制限を申し込む仕組み。

道路標識の役割	制度の周知に期待する機能（RSNの視点）
注意を促す	遊び方や生活とのバランスを振り返るきっかけ
境界を知らせる	使うお金・時間・来店回数の上限を意識する機会
行き先を示す	必要なときに利用できる制限・相談への入口

申請件数は利用状況を示す指標。制度の意義は、件数だけでは捉えきれません。
周知・理解・運用と、遊び方を見直す機会も含めて対策を考えます。

制度概要：自己申告・家族申告プログラム公式サイト　　※道路標識は機能を説明する比喩

手書きからデジタルへ

2026年5月から、相談の新システムを導入。
相談の蓄積が、継続支援と知見化の基盤になります。

01　手書き相談票



一件ずつ記録し、経過を残す

02　PDFで保存・参照



過去の記録を継続相談に活用

03　新しい相談支援システム



記録・整理・振り返り・検索・分析

**相談を「件数」から「知見」へ。個別事例を質的に分析し、対策に活かします。
変わったのは、相談そのものではなく、相談から得られる知見の残し方です。**

新体制におけるRSNの活用領域

相談窓口から、遊技の問題に関する地域対策の実装支援へ。

活用領域	RSNが支える内容
全国：対策会議支援	発言内容の整理、資料提供、相談実態の共有。 地域の会議に相談現場の知見を届けます。
管理職研修	店長・主任を対象に、ユーザー理解、初期対応、 相談窓口へのつなぎ方を扱います。
アドバイザー育成	制度理解と利用者理解を深め、相談対応の質の向上を支えます。
具体的対策と社会発信	ホールでの具体的対応、地域連携、 依存問題に関する取組みの社会的意義を伝える発信を支えます。

業界内外に対し、学ぶ。使う。伝える。
各県の対策を、RSNが支えます。